



# 知床科学委員会 しんぶん

## 知床世界自然遺産地域 科学委員会

NO.23

知床世界自然遺産  
地域科学委員会

エソシカ／ヒクマ  
ワーキンググループ

海域ワーキンググループ

適正利用・エコツアーリズム  
検討会議

河川工作物  
アドバイザー会議

知床世界自然遺産地域の管理について、有識者に科学的な助言を求める「知床世界自然遺産地域科学委員会」が開催されました。(第1回：2023年8月29日、第2回：2024年2月19日)

### TOPIC 1 「気候変動に係る順応的管理戦略」の策定に着手しました

知床は北半球における海氷（流氷）到達の南限とされ、海氷がもたらす栄養塩が世界自然遺産として認められた豊かな生態系や生物多様性を支えています。そのため、地球温暖化などの気候変動が進めば、その影響を受けて海氷が減少してしまう可能性が高く、将来的に世界自然遺産の価値が損なわれることが心配されています。

科学委員会では、たとえ気候変動が進んだとしても、知床がもつ世界自然遺産としての価値をできるだけ将来にわたり維持していくために、気候変動を念頭においた管理を行っていくための「気候変動に係る順応的管理戦略」を策定することとしました。

このたび、次の①～③のような具体的な検討に着手したところです。

#### ①知床で気候変動は進んでいるのか？

気象庁が観測・公表している気象データを用いて独自に集計し、40年前（1980年頃）と現在を比較してみました。

	宇登呂	羅臼
年平均気温	約1℃上昇 (平均約6.0℃→約7.0℃)	約1℃上昇 (平均約5.2℃→約6.2℃)
日最高気温が25℃以上になった年間日数	25日程度増加 (年間15日程度→40日程度)	5日程度増加 (年間5日程度→10日程度)
日最低気温がマイナス10℃以下になった年間日数	5日程度減少 (年間30日程度→25日程度)	15日程度減少 (年間30日程度→15日程度)
雪解け日（※）	3日程度早期化 (4/21頃→4/18頃)	12日程度早期化 (4/21頃→4/9頃)
流氷期間（網走）	20日程度減少 (90日程度→70日程度)	

（※）3月以降で積雪深がゼロとなった日。データのある30年前（1990年頃）との比較

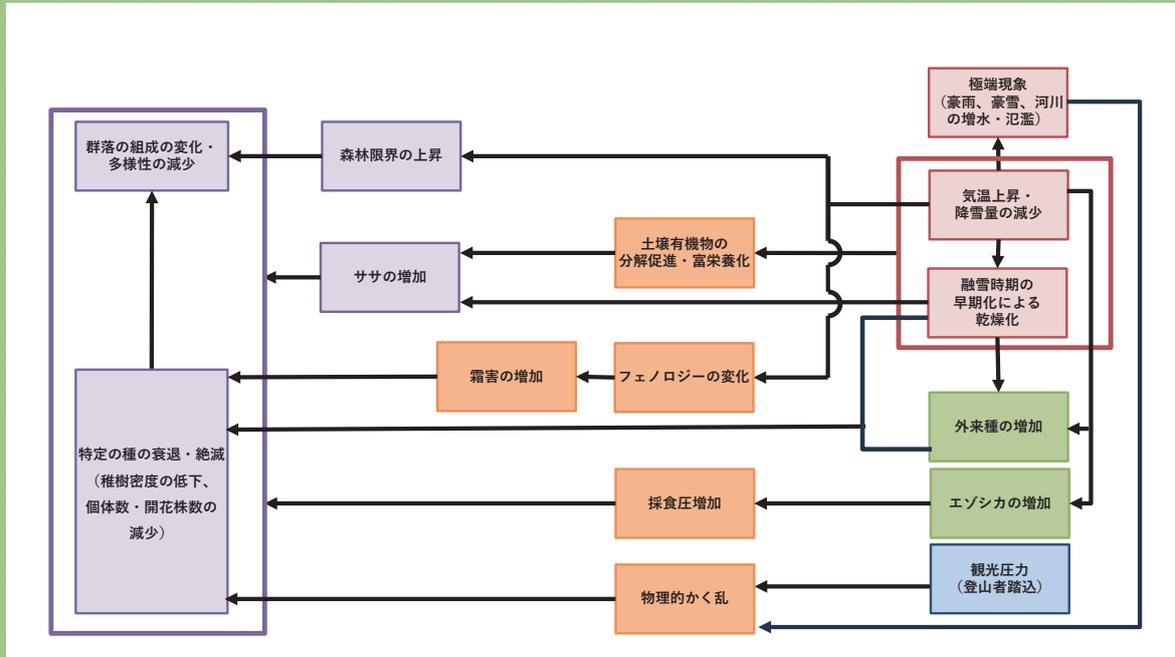
これらの傾向に基づいて、有識者からは「温暖化の影響は既に明確に表れていると考えて良いだろう」との意見がありました。

## ②気候変動は生物や生態系にどのような影響を与えるのか？

気候変動が続いた時にどのような影響が出るのか、様々な検討の土台となるように、まずは知床の主な生物や生態系ごとに因果関係の図を作成しました。

今後、この図を参照しながら、毎年実施している様々なモニタリング結果の変化に基づいて、影響発生の兆候を捉えていくこととしています。

【例：気候変動に伴う森林植生への影響】



## ③気候変動に対して、どのように取り組んでいくのか？

知床の価値の源でもある海氷の減少は、人間の力ではどうすることもできません。気温上昇の傾向も止めることが難しい状況です。そこで、

- ・各種モニタリングを長期的に継続し、気候変動の兆候や影響を捉える
- ・生物や生態系が受けている気候変動以外のストレス要因をできるだけ除去する
- ・あらゆる施策を対象に、気候変動の影響や適応を考慮したものに見直していく

を主軸に据えて取り組んでいきます。

### TOPIC 2

## 知床世界自然遺産地域・管理計画の見直し結果をまとめました

知床世界自然遺産地域・管理計画は、策定から10年以上が経過したことから、昨年度より見直しの検討を進めてきましたが、このたび科学委員会としての見直し結果をまとめました。今後、2024年度中を目途として、みなさまからのご意見をいただくパブリックコメントを経て、管理計画の改定を完了する予定です。

会議の内容をさらに詳しく知りたい方はこちら  
<http://shiretokodata-center.env.go.jp/>

### ■制作・発行■

環境省釧路自然環境事務所

〒085-8639

北海道釧路市幸町 10-3 釧路地方合同庁舎 4 階